

公益社団法人日本青年会議所 2026 年度 基本方針

和歌山ブロック協議会 会長 澤田 淳

<p>ブロック協議会の 幸せな社会</p>	<p>ともに挑み、ともに拓く、未来の和歌山</p> <p>和歌山に住む人々が、今以上に自らの地域のなかで夢や目標を見つけ、それに向かって努力し成長できる環境を構築することで、幸せな地域社会を築きます。そして、この幸せな地域社会の基盤となるのは、日常に対する安心感です。日常に対する安心感があるからこそ、人々は将来に向けて考えを巡らせることができるのであり、夢や目標を抱くことができます。また、和歌山は半島に位置しており、南海トラフ地震の発生確率が高い地域でもあります。日常を脅かす災害に対して、防災について考える機会を提供することを通じて災害に強い地域社会を構築することは、まさに幸せな地域社会の実現に欠かせないものです。さらに、和歌山県は人口減少が著しく高齢化率も全国平均を上回っています。それにより働き手の減少と、それに伴う地域経済の縮小が問題となっています。こうした状況に対し、本会、地区協議会の推進する運動を、ブロック協議会が地域に適した形にカスタマイズして展開をしていくことで、夢や目標を追い求めることができる幸せな地域社会を創造します。</p>
<p>ブロック協議会の 役割</p>	<p>和歌山ブロック協議会における最大の課題は、会員拡大と人財育成です。これらの課題に対し、本会や地区との連携を深めながら解決を図ることで各 LOM の基盤強化を図り、各 LOM の次世代を担うメンバーの育成を進めていきます。会員数の減少を発端とした様々な課題を抱える各 LOM に対して、必要とされる場面では寄り添う姿勢を示し、支援や情報共有を和歌山ブロック協議会から積極的に行うことで、ブロック協議会と各 LOM との関係性を築いていきます。さらに、各 LOM との関係性を築くための対話を大事にし、信頼を深め、強固なつながりを構築することで、ブロック全体としての連携や一体感を高めていきます。また、LOM が行う地域社会への運動時には、ブロック協議会が人的支援を行い事業の成果をより大きなものとしてまいります。さらに、災害が多い和歌山において、地域社会を構成する最小単位である家庭を守っていくために、FCP について考え、実際に取り組んでいくための機会を提供するリーダーとして、FCP に強みをもった防災リーダーを和歌山ブロック協議会が中心となって育成し、地域の安心を構築できる人財を創出いたします。</p>
<p>ブロック連携事業 (政策手法)</p>	<p>1. FCP(Family Continuity Plan:家族継続計画)の導入に向けた運動の推進</p> <p>和歌山ブロック協議会内のメンバーが FCP(Family Continuity Plan:家族継続計画)を導入できるようになるために、まずは和歌山ブロック協議会が行政、各種団体、本会と連携して、和歌山県の実情に即した FCP の雛形を作成し、各 LOM へ配布します。</p> <p>2. 日常から始めるカーボンニュートラル推進事業</p> <p>第 56 回和歌山ブロック大会の記念事業のなかで、カーボンニュートラルをテーマにしたフォーラムの開催やブースの出展を行います。和歌山県は海と山に囲まれた自然豊かな土地であることから、グリーンカーボン及びブルーカーボンの両面から CO₂吸収の可能性を探り、またこれらの強みを活かした J-クレジットの認証による事業化の可能性を模索できるような内容といたします。</p> <p>3. ブロックアカデミーにおける JAYCEE 育成カリキュラムの運用</p> <p>各地域を訪問して JC プログラムまたは JC セミナーを開催し、共通した価値観を学びながらアカデミーメンバー同士の交流機会の創出などを行います。訪問しての開催に際しては、近隣 LOM 同士のアカデミーメンバーを対象として合同で JC プログラムや JC セミナーを開催するなどして、JC の理念を学びながらアカデミーメンバー同士の交流の機会を創出する工夫を入れることで、今後の JC 活動に参加することの楽しさをアカデミーメンバーが感じられるようにいたします。また、メンバーの参加意欲を高めるために、JC プログラムか JC セミナーのどちらを開催するかについては、各 LOM の理事メンバーと意見交換をし、その LOM の課題を解決するのに、より適切なプログラム、セミナーとなるようにいたします。</p>

ブロック協議会 独自の事業	1. LOM の発展に寄与する連絡調整の実施
	【背景】 和歌山ブロック協議会の大きな役割の一つが、各 LOM との連絡調整です。各 LOM が求めるものを和歌山ブロック協議会が吸い上げ、また本会が打ち出す運動を、各 LOM の地域特性や会員数に応じた形に練り直して和歌山ブロック協議会から各 LOM に提案をしていくことが、大きな運動を巻き起こすために必要となっています。
	【目的】 本会及び地区協議会の情報を和歌山県下 8LOM へ速やかに共有することに加え、各 LOM の情報や意見を集約できる双方向の意見交換の場を設け、日本青年会議所、地区協議会、各 LOM の運動がより効果を生み出すための連携強化を図り、成長につながる支援に向けた情報共有の機会を創出します。
	【手法】 毎月開催される会員会議所会議の前に、連絡調整会議を設けます。本会、地区協議会からの連絡要請事項を伝えるとともに、各 LOM への支援が行き届くようにブロックとの双方向の意見交換の場を設けます。
	2. 青年会議所の次世代を担うメンバーの育成
	【背景】 近年和歌山ブロック協議会では理事長の立候補者が減少しており、理事長の担い手不足によって LOM の存続が危惧されるケースが生じています。LOM を継続していくためには理事長候補者を育成することが急務となっています。
【目的】 各 LOM において理事長及び理事となる候補者を増加させることを目的とします。	
【手法】 各 LOM の副理事長及び委員長をはじめとする各 LOM 理事メンバーを対象とした JC セミナーを開催いたします。JC セミナーにおいては、理事長経験者だからこそ得られる機会から多くの学びがあるという内容に加え、青年会議所が地域に対してできることなどを考えることができる内容といたします。	
3. LOM における会員拡大力の強化	
【背景】 和歌山県内のほとんどの LOM が、会員の減少を課題として挙げています。しかしながら、LOM によっては会員拡大の委員会を設置していない LOM や、会員拡大委員会は設置しているけれども経験不足からうまく機能していない LOM があります。少人数 LOM では会員拡大における知識や経験が蓄積されていないことも多く、会員拡大を LOM のみで進め成果を出すことが難しい状況となってきています。	
【目的】 各 LOM が規模や会員数に関わらず、より多くの会員拡大を実現できる組織体質となることを目的とします。	
【手法】 候補者段階及び仮入会段階に、各 LOM が必要とするであろう資料をブロック協議会が作成し、それらを各 LOM へ配布することで、各 LOM が候補者、仮入会者を本入会につなげる力を高めます。例えば、そもそも青年会議所とは何かを記載した説明資料や青年会議所でどのような学びを得られるかなど、どこの LOM においても使用することができる汎用的なオリエンテーション用資料をブロック協議会が作成します。	

	<p>4. LOM への運動構築支援</p> <p>【背景】 会員の減少に端を發した対外向け事業の縮小が生じている LOM が少なくありません。対外向け事業の縮小は、青年会議所の運動を停滞させることにつながることから、LOM の規模に関わらず対外向け事業を実施できる体制を構築する必要があります。また、LOM のなかでは出向者を出すことに対して消極的な LOM もあり、出向者を出すと、出向者が出向先でも活動や事業に時間や労力を取られてしまい、自 LOM の運営に大きな影響が生じる、ということが理由であると、ヒアリング結果でわかりました。しかしながら出向は青年会議所の理念や価値観を学ぶためにも非常に重要なものであり、かつ LOM 内では得られることのできない機会を得られるものでもあることから、出向の促進も欠かすことはできません。そのことから、出向者を出すと LOM のマンパワーが削がれる、というイメージを転換させる必要があります。</p> <p>【目的】 各 LOM が対外向け事業を円滑に実施するための体制を構築すること、また出向に対するイメージを転換させることを目的とします。</p> <p>【手法】 各 LOM が対外向け事業を円滑に実施するためにブロック協議会のメンバーが人的支援に入ります。支援先 LOM へブロック協議会出向者が入ることにより、マンパワーとして LOM の事業を支援することができるだけでなく、各 LOM の知識や経験が交換されて各 LOM の活性化及び出向に対するイメージの転換を図ります。</p>
	<p>5.和歌山ブロック大会の実施</p> <p>【背景】 青年会議所が展開する運動によって幸せを感じられる地域社会を実現していくためには、行政、関係諸団体、地域住民との連携が欠かせません。そして連携を深めるためには、私たちが展開する運動が地域に向けて発信され、理解と共感を得られなければいけません。</p> <p>【目的】 行政、関係諸団体、地域住民との連携を深めること、また 2026 年度和歌山ブロック協議会の運動に対して地域から理解と共感を得ることを目的とします。</p> <p>【手法】 主管 LOM とブロック協議会が連携をし、和歌山ブロック大会式典及び和歌山ブロック大会記念事業を実施いたします。記念事業については、カーボンニュートラルをテーマとして開催し、カーボンニュートラルを意識した事業構築、及びカーボンニュートラルに関するフォーラムやブース出展を行います。</p>
<p>ブロックによる LOM 支援の 実施内容</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. アカデミー育成事業を実施することで、今後の各 LOM の未来を担う人財を育成します。 2. 連絡調整会議として各 LOM との意見交換の場を設けることで LOM にとって必要な情報を提供します。 3. LOM の事業、運動を支援するために、LOM に対しての人的支援を行います。
<p>前年度より 引き継いだ 重点連携 LOM</p>	<p>LOM 名:新宮青年会議所</p>